

## 巡礼の祈り

神よ、旅に出かけている私たちを  
あなたの祝福で満たしてください。

あなたの顔の輝きは旅人の喜びとなりますように  
いつも私たちと共にいてください。

神よ、あなたは旧約時代のトビアに  
旅のために天使をお遣わしになったように、

私たちにも天使を遣わして  
困難、道の迷いなどの事故から  
お守りください。私たちの主  
イエス・キリストによって。

アーメン。

# 目次

---

---

ルルド (一日).....	03
ルルドの泉.....	04
聖ベルナデッタ.....	05
ルルド ~ ザベリオ城 (234 キロ).....	11
サン・ファン・デ・ラ・ペニャ修道院.....	12
聖フランシスコ・ザビエル.....	13
ザベリオ城 ~ サラゴサ市 (221 キロ).....	19
ヌエストラ・セニョーラ・デル・ピラール聖堂.....	20
サン・サルバトル大聖堂.....	22
サラゴサ市 ~ モンセラート (270 キロ).....	23
モンセラート.....	23
ムラネタ.....	29
大聖堂.....	30
モンセラート ~ バルセロナ (93 キロ).....	31
イグナチオ・デ・ロヨラ.....	32
ガウディの作品群 (世界遺産).....	36
アントニ・ガウディ・イ・コルネット.....	37
サグラダ・ファミリア.....	41
ゲエル公園.....	44
典礼と聖歌.....	45

2010年5月14日

---

## ルルド（一日）

今日の巡礼： ルルドの泉

1858年2月、村の14歳の少女ベルナデッタ・スピルーが  
郊外のマッサビエルの洞窟のそばで薪拾いをしているとき、  
初めて聖母マリアが出現したといわれている。

聖母を見たというベルナデッタは、  
教会関係者はじめ多くの人々から疑いの目を持って見られた。



## ルルドの泉

ベルナデッタが、聖母マリアが自分を「無原罪の御宿り」であると、ルルドの方言で告げた。それは「ケ・ソイ・エラ・インマクラダ・カウンプシウ」(QUE SOY ERA IMMACULADA COUNCEPCIOU = 私は無原罪のやどりである)という言葉であった。これをベルナデッタは神父に告げた。これによって神父も周囲の人々も聖母の出現を信じるようになった。なぜなら「無原罪の御宿り」は「無学なベルナデッタが知るはずのない」教会用語だったからである。



ただし「無原罪の御宿り」が教義として公認されたのは 1854 年であって、その教義の通りにわずか 4 年後にルルドに聖母マリアが出現したのである。

以後、聖母がこの少女の前に 18 回にもわたって姿を現したといわれ評判になった。1864 年には聖母があらわれたという場所に聖母像が建てられた。この話はすぐにヨーロッパ中に広まったため、はじめに建てられていた小さな聖堂はやがて巡礼者でにぎわう大聖堂になった。

以後、ベルナデッタ自身は聖母の出現について積極的に語ることを好まず、1866 年にヌヴェール愛徳修道会の修道院に入って外界から遮断された静かな一生を送った。彼女自身は自分の見たものが聖母マリアであったと言ったことは一度もない。後に尋ねられた時には「(ルルドに聖母が現れ、奇跡の泉があるという)あの話に本当のことは何もありません」と否定したとも伝えられる。

彼女自身、気管支喘息の持病があったが一度もルルドの泉に行くことはなく、より遠方の湯治場へ通っていた。肺結核により 35 歳で (1879 年 4 月 16 日) 病

没し、1933年に列聖されている。彼女の遺体は今もって腐敗せず、修道女の服装のまま眠るようにヌヴェールに安置されている。

遺体は1909年、1919年、1925年の3回にわたって公式に調査され、特別な防腐処理がなされていないにもかかわらず腐敗が見られない事が確認されている。

現在では、ルルドの聖母の大聖堂が建っており、気候のよい春から秋にかけてヨーロッパのみならず世界中から多くの巡礼者がおとずれる。マッサビエルの洞窟から聖母マリアの言葉どおり湧き出したといわれる泉には治癒効果があると信じられている。「奇跡的治癒」の報告は多いが、中にはカトリック教会の調査によっても公式に認められた「科学的・医学的に説明できない治癒」の記録さえ数例ある(カトリック教会が「奇跡的治癒」を認めることはまれであり、認定までに厳密な調査と医学者たちの科学的証明を求めている。但しいずれも当時の医学水準に基づくものである)。

## 聖ベルナデッタ

ルルドの聖ベルナデッタをご覧ください。  
1925年、落ち窪んだ眼と鼻、黒ずんだ顔と手をおおい隠すために良質の蠟のマスクがかぶされました。



ベルナデッタは、つつましい家庭に生まれた。家族の生活は、徐々に極貧の状態に陥っていった。その中で、ベルナデッタは常に病気がちな子どもであった。ごく幼い頃からすでに胃が悪くて苦しんでいた。度々喘息の激しい発作に見舞われた。健康が思わしくないために、修道生活への道は閉ざされているように

思われた。フォルカード司教がベルナデッタをヌヴェール愛徳修道会に受け入れてはと提案したとき、総長メール・ルイズ・フェランは、「司教様、彼女は修道院の病室の大黒柱になるでしょう」と答えた。

短い生涯の間に、彼女は少なくとも三度、病者の塗油の秘跡を受けた。彼女は喘息だけではなく、肺結核をはじめ、右膝結核性関節腫瘍．．．等に徐々に冒されていった。1879年4月16日、水曜日、痛みはその激しさを増した。彼女は、たびたび呼吸困難に陥り、そして15時15分頃、ベルナデッタは息を引きとった。



ヌヴェール市当局の許可を得て、ベルナデッタの遺体は4月19日の土曜日まで安置され、人々の崇敬を受けた。サン・ジルダールの修道女たちは、司教の同意を得て、市当局に、ベルナデッタの遺体を修道院の中庭にある聖ヨセフ小聖堂に葬る許可を求めた。1879年4

月25日に埋葬の許可が与えられ、4月30日にニエーヴル県知事が埋葬場所について承認した。早速、地下墓地をととのえる作業が始められた。1879年5月30日にひじょうに簡単な儀式が行われ、ベルナデッタの棺は聖ヨセフ小聖堂の地下墓地に安置された。

## 第一回「遺体鑑定」1909年9月22日

1909年の秋、ベルナデッタの聖性、諸徳、奇跡についての、教区長による調査が完了した。引き続き、最初の「遺体の鑑定」と呼ばれるものが、行われなければならなかった。それは、民法と教会法にもとづいて、遺体がベルナデッタ

自身のものであることと、遺体の状態を確認するためである。この最初の遺体の発掘は、1909年9月22日（水）に行われた。

遺体の鑑定が行なわれた場所で棺の横に、ベルナデッタの遺体、あるいは状況によって遺骨を置くために、白布でおおわれたテーブルが準備されていた。木製の棺のねじが抜かれ、さらに鉛の棺が切り開かれる．．．そのとき、完全な状態で保存されている30年前に亡くなられたベルナデッタの遺体が現れる。腐臭はまったく感じられない。



ベルナデッタの遺体が完全に保存されていたということは、必ずしも奇跡的な出来事だというわけではない。ある種の土壌においては、遺体が長期にわたって保存され、徐々にミイラ化していくことはよく知られていることである。しかし、ベルナデッタの場合、そのミイラ化の状態は驚嘆に値するものであると言い得る。上記のような条件とは逆に、亡くなったときの彼女の病気と体の状態、聖ヨセフ小聖堂の地下墓地の湿気（修道服は湿気を帯び、ロザリオはさびつき、十字架は緑青色になっていた）等々、すべては肉体をたやすく腐敗させ、分解させる要因になり得たように思われる。

## 第二回「遺体鑑定」 1919年4月3日

1913年8月13日、教皇ピオ10世は、ベルナデッタ・スピラーの列福調査および列聖調査に入ることを許可し、「尊者の称号を与える教令」に署名した。しかし、戦争が勃発したため、直ちに調査の手続きに入ることはできず、1918年まで待たなければならなかった。

「尊者」ベルナデッタの遺体の鑑定を、再度行うことが必要であった。1919年4月3日に、この鑑定が行われた。

ひじょうに大切なことは、遺体の鑑定を行った後、医師たちがそれぞれ別の部屋で、互いに相談し合うことなく、報告書を作成したことである。その二つの報告書の内容は、相互にまったく一致し、しかも1909年の博士たちの報告書とも完全に合致している。

今回は、遺体の状態に関してひとつの新しい事実が見られた。それは、「所々にかびと、カルシウム塩と思われる塩の層」が現れていたことである。それは、恐らく第一回目の発掘のときに、遺体を「洗った」ために生じたものであると考えられる。

## 第三回「遺体鑑定」および遺物の摘出。 1925年4月18日

1923年11月18日、教皇はベルナデッタの諸徳が英雄的なものであることを宣言した。これによって、列福への道が開かれた。この列福の宣言のために、三回目で最後の「遺体の鑑定」が必要とされた。今回の発掘の間に、ローマ、ルルド、修道会の支部修道院に送られるために、「遺物」が摘出された。この儀式は、ベルナデッタの死後46年後の1925年4月18日に行われた。それは、列福の宣言がまだ行われていなかったため、教会法の定めにしたがって私的なものとして行われた。

外科医は、特に肝臓の保存状態に驚嘆した。「今回の調査でひじょうに心を打たれたことは、明らかに、骨格、腱膜、靭帯、皮膚が完全に保存されていること、筋肉の弾力性と引き締まった状態、特に死後 46 年も経過しているにもかかわらず、肝臓がまったく予期していなかったほど良好な状態のまま保存されていたことである。この器官は本質的にもろく、柔らかいために、ひじょうに速やかに分解するか、あるいは石灰化して固くなる可能性があると考えられる。しかし、遺体を切開したとき、それは柔らかくほとんど普通の状態であった。わたしは、そこにいた人々に、これがごく自然の現象であるとは思われないことを、指摘した。」



外科的な作業を終えてから、コント博士は、顔と手だけを残して遺体を包帯で巻いた。このとき、正確に顔の型がとられた。それは、パリのピエール・イルマン社で、その型および数枚の本物の写真をもとにして、薄い蠟のマスクを作るためであった。それは、遺体はミイラ化しているとはいえ、黒ずんだ顔、落ち込んだ瞳と鼻が、人々に不快な印象を与えるのではないかと懸念されたからである。同様の理由で、手の型がとられた。棺の中の手の位置を全然変えないように、注意深く処置がなされた。

1925年6月14日、教皇ピオ十一世は、ベルナデッタを「福者」として公に宣言した。しかし、リヨンのアルマン・カイヤ・カトゥラン社の工房でつくられていたガラスの棺がまだ完成していなかったため、ベルナデッタの遺体をその棺に納めるのは、7月18日まで待たなければならなかった。その日に行われた儀式は、ひじょうに簡素なものであって、遺体はガラスの棺に安置された。

8月3日の夕方、ガラスの棺は、荘厳にサン・ジルダール修道院の大聖堂へと移された。8月4日、5日、6日は、新しい福者をたたえる荘厳な三日間であった。この3日間をきっかけに、聖ベルナデッタの友である人々が、次々と巡礼にやって来るようになった。



2010年5月15日

## ルルド ~ ザビエル城

今日の巡礼： 聖フランシスコ・ザビエル生地、ザビエロ城



< 今日も >  
ハカ大聖堂、  
サン・ファン・デ・ラ・ペニャ修道院、  
レイレ修道院



## サン・ファン・デ・ラ・ペニャ修道院

サン・ファン・デ・ラ・ペニャ修道院はサンティアゴの道に沿って見られる最も古い修道院の1つです。それは、ハカ市（元アラゴン王国の首都）の近くに位置しています。元来、それはイスラム教の侵略の間に追われたキリスト教人のための避難所でした。ザラゴザ県でアラブの部隊から逃れたキリスト教人はいくつかの小さいチャペルを設立しました。それは修道院の起源であった。842年に修道院は再建されて、そして聖別されました。



920年に、アラゴンの伯爵ガリンド2世は、そこで、聖ジュリアンと聖バシリサの修道院を設立しました。そして、その上に、11世紀に、サンチョ・ラミレス（アラゴンの2番目の王）は、クリューニの修道院として、サン・ファン・デ・ラ・ペニャ修道院を作りました。彼はそれを貴族の墓地として計画したので、この場所に埋葬された、莫大な寄付をしたアラゴンとナバーラの貴族の墓を見ることができます。そして、18世紀にカルロス3世によって国王のパンテオンが作られました。

12世紀に作られた、ロマネスク様式の回廊は修道院の最も重要な部分です。そしてそれは山の岩の下で守られており、このような形では世界中で唯一の回廊です。1675年に火事が起きました。食堂、ゲストハウス、記録文書保管所などが燃えてしまいました。そのため、修道士が近いところに新しい修道院を作って移動しました。

# 聖フランシスコ・ザビエル

フランシスコ・ザビエルは、  
カトリック教会の宣教師でイエズス会の創設メンバーの1人。  
1549年に日本に初めてキリスト教を伝えたことで特に有名だが、  
日本だけでなくインドなどでも宣教を行いました。



ザビエルは1619年10月25日教皇パウルス5世によって列福され、1622年3月12日盟友イグナチオ・ロヨラと共に教皇グレゴリウス15世によって列聖された。

ザビエルはカトリック教会によってオーストラリア、ボルネオ、中国、東インド諸島、ゴア、日本、ニュージーランドの守護聖人とされている。カトリック教会の聖人で、記念日は12月3日。

## 青年期まで

1506年4月7日生まれのザビエルは、スペイン、バスク地方、パンプローナに近いザビエル城で地方貴族の家に育った。彼は5人姉弟の末っ子で、父はファン・デ・ハッソ、母はマリア・アスピルクエタという名前であった。父はナバーラ王国の宰相であった。彼が誕生した頃、すでに父は60歳を過ぎていた。ナバーラ王国は小国ながらも独立を保ってきたが、フランスとスペインの紛争地になり、1515年についにスペインに併合される。この後、ザビエルの一族はバスク人とスペイン、フランスの間での複雑な争いに翻弄されることになる。こ

ザビエル城は、13世紀の頃すでにナバーラ王国の東端に建っていた。イベリア半島にある他の城同様におもに回教徒軍の攻撃を防いで国を守るという戦略上の目的で建てられた。15世紀に城はザビエルの祖父の所有となり、そこで生まれた母マリアは城を持参金のひとつとしてヨアン・デ・ヤスと結婚し、城はザビエルの父のものとなった。そして1506年フランシスコは6人兄弟の末子としてその城に生まれました。

1512年、スペイン軍がフランスと戦うという口実のもとにナバーラを占領した。ザビエル家はもちろんのこと、ナバーラ人の大部分は反対したが、3年後の1515年、700年前からのナバーラ王国は初めてスペインのものになった。翌1516年、城はナバーラ人の暴動を防ぐため、家族の住まいだけを残して、枢機卿シスネロスの命令によって破壊されてしまいました。そのとき、フランシスコ・ザビエルは10歳であった。

1892年に、ヴィヤエルモサ女公爵によって復興されて、元の形に戻りました。そして、1901年に、城の側でフランシスコ・ザビエル聖堂の落成式を行ないました。

のように物心ついたころから戦乱の日々を生きていたフランシスコは聖職者を志すことになる。

1525年、19歳で名門パリ大学に留学。バルバラ学院に入り、そこで自由学芸を修め、神学を学んでいるときにピエール・ファーヴルに出会う。さらに同じバスクから来た中年学生イニゴ（イグナチオ・デ・ロヨラ）との出会いがザビエルの人生を変えることになる。ザビエルはイグナチオから強い影響を受け、俗世での栄達より大切な何かがあるのではないかと考えるようになった。



1534年8月15日、イグナチオを中心とした7人のグループは、モンマルトルにおいて神に生涯をささげるとい同志の誓いを立てた。その中にザビエルの姿もあった。これがイエズス会の起こりである。1537年6月ベネチアの教会でピン

センテ・ニグサンティ司教によって、ザビエルはイグナチオら 5 人と共に司祭に叙階される。彼らはエルサレム巡礼の誓いを立てていたが、国際情勢の悪化で果たせなかった。

## 東洋への出発

当初より世界宣教をテーマにしていたイエズス会は、ポルトガル王ジョアン 3 世の依頼で、会員を当時ポルトガル領だったインド西海岸のゴアに派遣することになりました。ザビエルはシモン・ロドリゲスと共にポルトガル経由でインドに発つ予定であったが、ロドリゲスがリスボンで引き止められたため、彼は他の 3 名のイエズス会員（ミセル・パウロ、フランシスコ・マンシリアス、ディエゴ・フェルナンデス）と共に 1541 年にリスボンを出発しました。ザビエルはアフリカのモザンビークで秋と冬を過ぎて 1542 年 5 月 6 日ゴアに到着しました。同地に 3 年滞在し、そこを拠点にインド各地やマラッカなどに赴いて宣教活動を行い、多くの人々をキリスト教に改宗させました。

ザビエルはインドからマラッカに渡って、そこで 1547 年 12 月に出会ったのが鹿児島出身のヤジロウ（アンジローとも）という日本人であった。ヤジロウの話を聞いたザビエルの心の中で、まだキリスト教の伝わっていない日本に赴いて宣教したいという気持ちが強くなりました。

## 日本を目指し、そして到着

ザビエルは 1549 年 4 月 15 日、イエズス会員コスメ・デ・トーレス神父、ファン・フェルナンデス修道士、マヌエルという中国人、アマドールというインド人、およびゴアで洗礼を受けたヤジロウら 3 人の日本人と共にゴアを出発、日本を目指した。

中国のジャンク船に乗った一行は上川島を経て 1549 年 8 月 15 日（カトリックの聖母被昇天の祝日にあたる）に鹿児島（現在の鹿児島市祇園之洲）に上陸しました。1549 年 9 月には伊集院の一宇治城で薩摩の領主島津貴久に謁見し宣教の許可を得ました。ザビエルは鹿児島で布教する日々の中で、福昌寺の住職、忍室（にんじつ）との宗教論争を行ないました。ここで後に日本人初のヨーロッパ留学生となる鹿児島のベルナルドなどに会いました。



1550 年になると、かねてから都に上がることが目標であったザビエルの一行は、島津貴久のはからいで平戸へ向かうことができました。そこでも宣教活動を行っていたが、ザビエルは平戸の信徒の世話のためにトーレス神父を残して、鹿児島のベルナルド、フェルナンデス修道士と共に都を目指した。

## 京都から山口へ

1550 年 11 月、山口に着いた一行は、なんとか領主の大内義隆に謁見できることになりました。が、男色を罪とするキリスト教の教えに大内が激怒したために山口を離れ、岩国から海路堺へと赴いた。堺では幸運にも豪商の日比屋了珪の知遇を得ることができた。了珪の助けによって 1551 年 1 月、一行は念願の京に到着しました。京都では了珪の紹介で小西隆佐の歓待を受けました。日本国内での活動は了珪の邸宅の一部を借りて行われました。その場所が現在では「ザビエル公園」（大阪府堺市）として市民に開放されており、彼の宣教活動を顕彰する碑が建てられています。

ザビエルは京で「日本国王」に謁見し、布教の許可を得れば全国での布教が自由になると考えていたが、京は戦乱で荒れ果て、足利幕府の権威は失墜しており、後奈良天皇が住まれる御所も荒れ放題であった。ザビエルは比叡山で僧侶たちと論戦を試みたかったが、比叡山から拒絶された。天皇への拝謁も献上品がなければかなわないことを知ってあきらめたザビエルは滞在わずか 11 日で失意のうちに京都を去ることになりました。

1551 年 3 月に平戸に戻ると、残っていた贈り物用の品々をもって山口へ向かい、再び領主の大内義隆に拝謁した。それまでの経験で、どこでも貴人と会見する時は外見が重視されることを知っていたザビエルは一行を美服で装い、珍しい文物を大内義隆に献上した。大内義隆は喜んで布教の許可を与え、ザビエルたちのために住居まで用意した。山口で布教しているとき、ザビエルたちの話を座り込んで熱心に聴く目の不自由な琵琶法師がいた。彼はキリスト教の教えに感動し、ザビエルに従った。彼が後にイエズス会の強力な宣教師となるロレンソ了斎である。



## 再びインドへ \* ザビエルの最期

1551 年 9 月、ポルトガル船が豊後に入港したという話を聞いて、ザビエルは豊後に向かった。同地で 22 歳の青年領主大友義鎮に謁見している。日本滞在中も 2 年になり、ザビエルはインドからの情報がないのが気になっていたため、ここで一度インドに戻ることを決意し、トーレスらを残して出発、中国の上川島を経てインドに向かった。このとき、ザビエルは日本人青年 4 人を選んで同行さ

せた。それが鹿児島島のベルナルド、マテオ、ジュアン、アントニオの4人である。

1552年2月、インドのゴアに到着。司祭の養成学校である聖パウロ学院にベルナルドとマテオを入学させた。マテオはゴアで病死するが、ベルナルドは学問を修めてヨーロッパに渡った最初の日本人となった。

1552年4月、日本布教のためには日本文化に大きな影響を与えている中国にキリスト教を広めることが重要であると考えていたザビエルは、バルタザル・ガーゴ神父を自分の代りに日本へ派遣し、自分自身は中国入国を目指して8月上川島に到着した。しかし中国への入国はできないまま、体力も衰えていたザビエルは精神的にも消耗し、病を得て12月3日上川島でこの世を去った。46歳であった。

遺骸は上川島で一度埋葬された後、マラッカを経てゴアに移され現在はボン・ジェズ教会に安置されているが、遺体の一部は、ローマ・ジェズ教会に移された。



2010年5月16日

## ザビエル城 ~ サラゴサ

今日の巡礼： 柱上の聖母聖堂



地元の言い伝えによれば、この聖堂の歴史は、  
12使徒の一人でスペインにキリスト教をもたらしたヤコブの前に  
マリアが姿を現したという逸話に始まる。  
これは聖母の被昇天以前にマリアが出現した唯一の例として知られる。  
バロック様式で、現在の建物は1681年から1872年の間に建てられた。

< 今日も >

サラゴサ大聖堂



# ヌエストラ・セニョーラ・デル・ピラール聖堂

(和名：柱上の聖母聖堂)

## ピラールの出現

古くからの地元の言い伝えでは、キリストの磔と復活の後、ヤコブはスペインに福音書をもたらしたが、伝道に失敗し彼は意気消沈してしまった。言い伝えでは紀元 40 年 1 月 2 日、彼がエブロ川の岸辺で深く祈りを捧げていると、神の母が彼の前に出現し、自分自身を模した小さな木像と碧玉の柱を与え、彼に教会を建てるよう命じた：“この地は私の家となる、この像と円柱はお前の建てる祭壇と建物の名前とするように。”

## 最初の礼拝堂

出現から 1 年後、ヤコブはマリアを讃える小さな礼拝堂を建てる準備を整えた。最初の教会は処女マリアへ捧げられた。エルサレムへ戻った後、彼は 44 年頃にアグリッパ 1 世によって処刑され、12 使徒で初めての信仰の殉教者となった。彼の弟子数名が彼の遺体を引き取り、スペインの最終的な埋葬地へ連れ帰った。



## いろいろな様式の教会

その後現在の聖堂の位置に多くの教会が建てられた。聖ヤコブの建てたちっぽけな礼拝堂はのちのコンスタンティヌス帝時代にバシリカに似た建築となった。その直後にロマネスク様式に建て替えられ、その後にゴシック様式、バロック様式に改築された。

教会は、ペドロ・デ・リブラナが司教職を勤めた期間にロマネスク様式で建てられた。彼は、サラゴサで聖母への感謝状の最も古い記載を残した人物として名を残した。このロマネスク様式の教会で今も残るのは、南壁のティンパヌム（アーチ下の半円壁）である。

1434年の火事でロマネスク様式の教会は損傷し、ゴシック様式で再建が始まった。ゴシック様式の教会は15世紀に建てられた。今では聖歌隊席とダミアン・フォルメントが作った石膏の祭壇衝立を含む数カ所だけが無傷のままあるいは修復されて残っている。

現在の広々としたバロック様式の教会は、1681年にスペイン王カルロス2世により建設が始まり1686年に完成した。1725年、サラゴサのカビルド(協議会)が聖なる礼拝堂の外観変更を決め、建築家ベントウラ・ロドリゲスに設計を依頼した。彼は聖堂を現在の高さ130メートル、幅67メートルの大きさに一変させ、11の小尖塔と4つの大塔(高さは90メートルを超える)を加えた。現在最も観光客が訪れる箇所は、ロドリゲスが1754年に建てた、聖母マリアの像を納めた礼拝堂のある礼拝堂東部分である。礼拝堂周囲は、フランシスコ・デ・ゴヤの描いたヴォールト(穹窿)やドームに囲まれている。1718年には聖堂は完全にヴォールトで覆われたが、主ドームと最後の尖塔が完成しこれらのヴォールトの最終的な手入れが終わったのは1872年である。

1936年から1939年までのスペイン内戦の間、三つの爆弾が教会に落とされたが、どれも不発であった。

### 柱とマリア像

マリア像(高さ39センチ)は木製のものであり、碧玉の円柱(170センチの高さ、24センチの直径)に載っている。言い伝えによると聖アグレダのマリアに対し出現した聖母は、夜中に天使たちの手で雲に乗ってサラゴサに運ばれたという。聖母はヤコブに預言を伝え、



自分が出現した地に教会を建てるよう頼んだ。柱と像は、祭壇衝立の一部となっている。1905年5月20日に、聖母像に冠が被せられた。

1月2日は、マリアの出現記念日。10月12日は、柱上の聖母祝日。そして、5月20日は、聖母像の戴冠式記念日。そのために、毎月、2日、12日、20日にマリア様の像はマントなしで現われるので、聖柱を見ることができる。

## サン・サルバトル大聖堂

スペイン北東部、アラゴン州の都市サラゴサにある大聖堂。

アラゴン地方の言葉で「ラ セオ」と呼ばれる。

14世紀に建造され、ロマネスク、ムデハル、チュリゲラ様式が混在する。後陣、礼拝堂、円蓋部分はイスラム文化を取り入れた中世スペイン建築の傑作として、2001年に「アラゴンのムデハル様式の建築物」の名称で世界遺産(文化遺産)に登録された。

### 歴史

大聖堂はモーロ人のサラゴサの主なモスクのところに築られました。建設はロマネスク様式で12世紀に始まりました。



アルフォンソー一世は1118年にサラゴサ市に到着しました。彼は回教徒を一年をかけて移動させた。そして、1121年10月4日にサラゴサのモスクはサン・サルバドルの名前に変えて聖別されました。

モスクの破壊とともにロマネスク様式の大聖堂の建設は1140年に始まりました。大聖堂の建設は13世紀を通じて続けられた。

1318年に教皇ヨハネ二十二世はサラゴサ大司教区を作りました。そこで、この建物はその大司教区の大聖堂となりました。

大司教ペドロ・デ・ルナ(1317~1345)の監督下でゴシック様式の

教会が建てられました。そして、1376年にフェルナンデス・デ・ルナがすでに大司教であったとき完成されました。

2010年5月17日

---

## サラゴサ市 ~ モンセラート

今日の巡礼： モンセラート



## モンセラート

バルセロナから38キロ離れたカタルーニャの中心地、マンレザやイグワラダの市の近くにモンセラートの独創的でありとした山塊がそびえている。

山頂はサン・ジャロニの頂きで、海拔1,236メートルである。

モンセラートの山一帯は長さ10キロメートル、幅5キロメートル、楕円の周囲25キロメートルの広範囲に及んでいる。



紛れもないギザギザ山の姿は、水、太陽、雨、霜、風によってゆっくりと削られたもので、あちこちに枝分かれした小さな山岳帯を形成している。そのすばらしい眺望は多くの人々の幻想を呼び起こし、多数の作家に靈感を与えてきた。

モンセラートの名が初めて記述されたのは、ギフレー・アル・ピロス伯がピレネー山脈のリポイ修道院に寄贈した文書においてである。彼は 875-876 年に、モンセラート周辺の土地をアラビア人から奪還したバルセロナの最初の伯爵であった。888 年には征服した土地の一部を四つの礼拝堂とともにリポイ修道院に寄贈した。そのうち二つは山の麓にあるサン・マルティーとサン・ペラで、残りの二つは、山の高い所にあるサンタ・マリア(現在の聖堂の元になった)とサン・イスクラ(現存する唯一の礼拝堂で、修道院の庭にある)であった。多分それらは、アラビア人の侵略が始まった年の 711 年より以前の西ゴート時代に建てられたと思われる。伝説によれば、880 年に山の洞窟で聖母マリア像が発見された。そして、その辺りに、当時の司教はサンタ・マリア礼拝堂を建てた。こうして、モンセラートの隆盛が始まった。

### 修道院の誕生

類い稀なる場所、険しい山の姿、山の静けさがすぐにキリスト教徒を魅了し、そこで祈りと懺悔の生活を送る者が現われた。しかし、モンセラートの本当の隆盛はサンタ・マリア礼拝堂の名声の賜であった。

勢力の強いリポイ修道院は自分たちの問題で忙しく、モンセラートに持つ四つの小さな教会のことをほとんど気にしていなかった。また、リポイからモンセラートは遠すぎた。それゆえ 10 世紀の中頃、モンセラートにあるサンタ・セシリアの修道院長は世俗や宗教の権威が権利を主張するまで、四つの礼拝堂を自分の物にした。



1008 年、ウリバはリポイの修道院長になった。モンセラートの四つの礼拝堂と周辺の土地の所有に関する訴えを刷新し、リポイ修道院の所有と決めたのは彼だった。モンセラートの四つの礼拝堂を取り戻した彼は、人里離れたモンセラートの山に新しい修道院を建てることを決め、サンタ・マリア礼拝堂にリポイの修道士の一団を住まわせた。1025 年頃である。

この小さな修道院は聖ベネデットの会則によって運営され、すぐに巡礼者が訪れるようになり、聖母が生み出す奇蹟の物語が少しずつ普及していった。巡礼者は引きも切らず訪れ、修道院に寄付が後を絶えなかった。すぐに古い礼拝堂は手狭になり、12 世紀に別のロマネスク様式の

礼拝堂を建てなければならなくなった。その玄関は現在の聖堂の前廊の横壁に今も残っている。

## モンセラートの歴史

13 世紀以来、モンセラートはその特徴を徐々に強めていった。急成長したモンセラートはカタルーニャで最も名声の高い聖地になり、キリスト教世界においても最も高名な聖地の一つになった。

1410 年 3 月 10 日に、修道院の歴史に最も重要な出来事が起こった。ベネディクトス 13 世は修道院をリポイ修道院の管轄から独立させることを決め、修道士たちはモンセラートの初代修道院長に、マルク・ダ・ビダルバを選出した。彼は外交の才に長け、カタルーニャの政治に意欲的に介入した。

後継者の一人、アントニ・ペラ・ファレーは彼の方針を引き継ぎ、内乱において、ジュアン2世に対抗することを明確にした。この政治的闘争は修道院に顕著に悪影響を及ぼし、修道生活の実践を困難にし、改革の必要を誰もが感じていた。それが、1493年にカトリック王、フェルナンド2世の介入を許し、修道院はバヤドリッドのサン・ベニート・エル・レアル修道会に併合され、カタルーニャの言語も習慣も知らないカスティリアの修道士がやって来た。



しかし、有名なシスネロス枢機卿のいところである同名の修道院長の指挿のおかげで、モンセラートに改革の時期が訪れた。非常に敬虔で、良い指導者であった彼は『精神生活の実践集』を書いて、修道士の教育と教養を高めることに専念した。また、1499年にはドイツ人の工匠と契約を結び、新しい印刷技術を修道院に導入した。

修道院の創立以前からモンセラートに古くから存在していた隠遁生活は、この時期に充実していき、ナポレオン戦争まで続いた。モンセラートの山に散らばった礼拝堂で隠修士が行っていた労働と祈りの生活は、修道院長が会憲と定着した習慣に従って管理していた。

聖地の活発な活動によって、ロマネスク様式の教会の狭さが痛切に感じられるようになった。修道院長に就任したバルツメウ・ガリガは1560年、巡礼者や訪問者の援助を得て、現在の教会の建築に着手し、1592年に工事は終了した。

17世紀は、カタルーニャ公国を破滅させた戦争と、バヤドリッドの修道士が持ち込んだ新しい規則が時とともに強い緊張を引き起こしたことなど、モンセラートにとって動乱と困難の世紀であった。収穫人たちの戦争中、中央権力に対して蜂起が起こると、カタルーニャ公国の最高組織であったカタルーニャ総政府議員団は1641年、カスティリア王国出身の修道士を国境へ追放した。しかしながら、蜂起が鎮圧されるや否や、バヤドリッドに再従属している。



フランス戦争が勃発すると、戦略的な条件が整わないながらもモンセラートは二度も要塞化した。ナポレオンの軍隊は1811年と1812年に修道院に放火し、建物全体を爆破した。古いモンセラートのものでは、焼けた石の山と、半壊した建物しか残っていなかった。しかし、聖母像は山のあるところに隠されていたので無事だった。

激動の19世紀には、モンセラートは当時の政治闘争を背景に、ゆっくりとした回復と再建の仕事に取りかかった。しかし、すべては1835年の所有財産売却法令によって麻痺してしまった。この宗教団体の解散を命じた法によって、修道士たちは修道院を立ち去ることを余儀なくされた。1844年、彼らが修道院に戻った時、しなければならない仕事が山ほどあった。

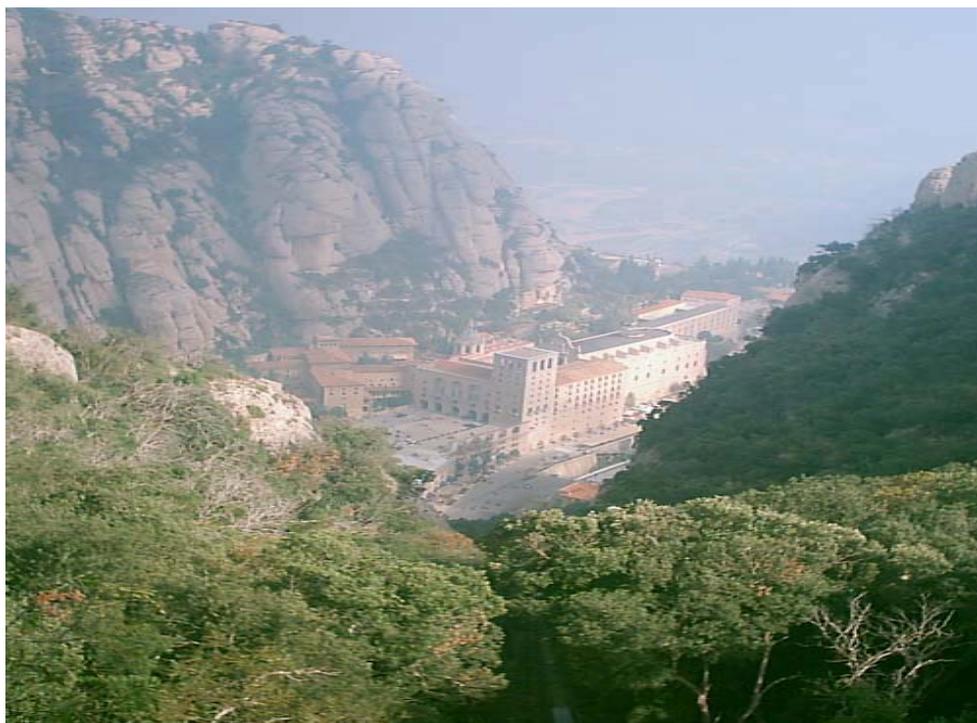
1858年、バヤドリッドの修道会は消失していたので、教皇はミケル・ムンターダスを修道院長に任命した。こうして修道院は絶対的な独立を取り戻し、すぐにスピアコのイタリアの修道会に加入した。そして聖地の再建にいっそう努力した。この再建は、ラナシェンサというカタルーニャの文学・文化・政治復興運動と強く結びついていたため、カタルーニャの大衆にとって大きな意味を持っていた。ラナシェンサはカタルーニャの広い分野でカタルーニャの独自性を意識させるに至った。

こうした運動と一致して1880年、修道院の想定設立一千年が祝われ、翌年にはレオ13世の許可を得て、カタルーニャの守護神として聖母像に冠が被せられた。

1892 年、巡礼者の交通の便をはかるためにアプト式鉄道が建設され、それは 1957 年まで運行された。2003 年 4 月、これまでの線をほぼそのまま利用し、これに現在の最先端技術を施した新しい鉄道が開通して、聖地へ通ずる素晴らしい交通機関となった。

最後に 20 世紀においては、マルセッ修道院長の存在が際立っている。彼の指揮の下で修道会は図書館を設立したり、カタルーニャの教会の広域に渡って礼拝生活を一新する意味で、1915 年に最初の典礼会議を開いたりするなど、精力的に宗教文化活動を行った(1965 年と 1990 年にも同様の会議が開かれた)。

1936 年の市民戦争の間は、修道院はカタルーニャ自治政府に差し押さえられていたので、物質的な被害はほとんどなかったが、23 人の修道士が命を失った。戦後、1947 年にアスカレー修道院長の推進の下で、一般の資金援助を得て、新しい聖堂における聖母の即位が祝われた。これは戦後のカタルーニャの民衆と文化の復興を表わす盛大なお祭りであった。



## ムラネタ

歴史によると、現在のサンタ・マリア(聖母)像がロマネスク教会に設置されるや否や、膨大な巡礼者が訪れ、修道院の名声が上がったという。

暗い顔の色から親しみを込めて“ムラネタ”と呼ばれる聖母像は、12世紀の終わりが、13世紀の初めにポプラ材で作られたロマネスク様式の木彫りの像で、何度も修復されているが、特にフランス戦争(19世紀)の後に特別な修復を受けた。穏やかで簡素な美しさをたたえる像は、時の経過とともにニスのゆっくりした変容によって(酸化が進んだため)顔と手が黒くなったと思われる。また、小さなロマネスク教会で何世紀にも渡って燃やされた大ろうそくや灯火の煙のせいとも考えられる。



冠を被った聖母は多色の頭巾、チュニック、金のマントを身につけている。厳かに構えた聖母の右手には一つの玉が乗せられ、その膝には聖母と同じような冠と服を身につけた幼いイエスが座り、右手で祝福の身振りをして、左手には松かさを持っている。

この像は 1599 年にロマネスク教会から現在の教会へ移され、1881 年にはカタルーニャで最も重要な守護聖人として教会法に従って戴冠された。1947 年、現在の聖堂に移された。

イエスの母であるこの像は、モンセラートにおいて精神的存在を表わしながら、長い時を経て名声と重要性を獲得していった。

## 大 聖 堂

起伏の激しい土地の上に建つモンセラートの聖地の建物は、全く不規則な形をしている。何世紀もの間、破壊と修復を繰り返してきた建築物全体は、修道士の部屋がある大聖堂と、巡礼者や観光客のための宿泊及び接待施設の二つのブロックに分けられる。芸術的に興味深いのは前者の方である。

モンセラートの大聖堂は 16 世紀にバルトゥメウ・ガリガ修道院長によって建てられた。建築を指揮したのはミケル・サストラで、大規模な計画だったことや、自然立地条件の厳しさから完成まで 32 年を要した。1592 年 2 月 2 日に聖別され、信徒に門が開かれた。1881 年、レオ 13 世は教会を大聖堂に昇進させた。1900-1901 年、プラテレスコ様式の正面は二人の兄弟の彫刻による現在のものにとって代わられた。



長さ 68.32 メートル、幅 21.5 メートル、高さ 33.33 メートルの身廊は、建てられた時代と関係なくゴシック様式の丸いアーチで覆われ、側面の六つの礼拝堂を区切っている壁の上に支えられている。建物全体は、ゴシック様式からルネサンス様式への過渡期に位置するカタルーニャのモニュメントの中で、かなり独創的なものである。教会の内部はナポレオン軍による破壊後に修復された。1992-1996 年、様々な手に加えられた正面に原形のルネサンス様式の雰囲気を取り戻すための工事が為され、また内部においても時の経過とともに暗くなった色調をやめて、光を取り戻す作業が行われた。

中央には緑色の大理石でできた階段の上に、モンセラートの山から採石した 8 トンの石の塊でできた中央祭壇がある。

2010年5月18日

---

## モンセラート ~ バルセロナ

今日の巡礼： 聖イグナチオ・デ・ロヨラの洞窟



< 今日も >

サグラダ・ファミリア大聖堂とガウディの作品群



# イグナチオ・デ・ロヨラ

イグナチオ・デ・ロヨラ (1491 年 12 月 24 日-1556 年 7 月 31 日)は

スペイン・バスク地方出身、

カトリック教会の修道会イエス会の創立者の一人にして初代総長。

同会の会員は教皇への厳しい服従をモットーに世界各地で活躍し、現代に至っている。

イグナチオは『靈操』の著者としても有名で、対抗改革の中で大きな役割を果たした。

カトリック教会の聖人で記念日(聖名祝日)は 7 月 31 日である。



1491 年にイグナチオ・ロヨラはスペインの北部バスク地方、ロヨラ城で生まれた。ロヨラ家はその歴史は 12 世紀にまで遡る名門であり、イグナチオは 13 人兄弟の末っ子として生まれた。冒険好きで、だいぶ血の気の多い家系らしく、彼の三人の兄も遠い異国の地で軍人として戦死している。彼の名は「イニゴ」であり、「イグナチオ」は自分自身につけた名前である。7 歳で母を失った。

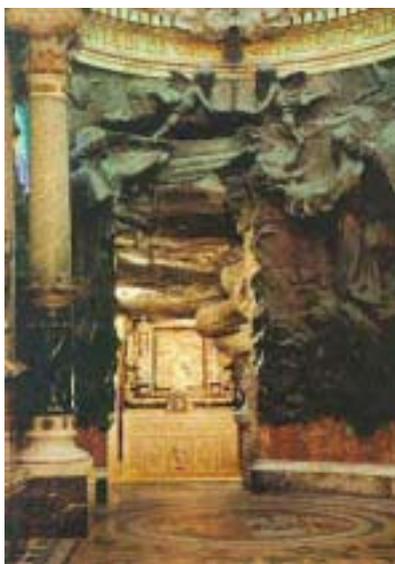
北スペインに住んでいた若い時のイグナチオは、将来は有名な騎士になる事に憧れ、好きな事は騎士物語や恋愛小説を読むことであった。1517 年以降、イニゴは軍務について各地を転戦したが、1521 年 5 月 20 日に行われたパンブローナの戦いで、指揮中に飛んできた砲弾が足に当たって負傷し、父の城で療養生活を送ることになった。

## 修道生活へ

療養生活の間、暇をもてあましたロヨラは騎士道物語が読みたかったが、そこにはなかったので仕方がなくイエスの生涯の物語や聖人伝を読みはじめた。やがて、彼の中に聖人たちのように自己犠牲的な生き方をしたいという望みが生

まれてきた。彼は特にアッシジのフランチェスコの生き方に影響され、聖地に赴いて非キリスト教徒を改宗させたいという夢を持つにいたった。聖人にあこがれるあまり、彼は自分の名前をイニゴから(アンティオキアのイグナティオスにならって)イグナチオに改めている。

その時、彼は宗教者の道を進む決心をして、城を出た。そして、たった一人で旅を続け、フランス人司祭のもとを訪れ、告白を行い、全財産を教会と貧民に寄付し、修道士となる。1522年、31歳の時のことである。



健康を回復すると1522年3月25日にイグナチオはモンセラートのベネディクト会修道院を訪れた。そこで彼は世俗的な生き方との決別を誓い、一切の武具を聖母像の前に捧げ、マンレサ市に近い洞窟の中にこもって黙想の時を過ごした。

そこでイグナチオは啓示を受けたとされている。ここにいたってイグナチオはひたすらわが身を聖母に捧げることを誓った。しかし、以後の彼の宗教的な人生においても軍事的なイメージがよく用いられることになる。

このころ、イグナチオはすでに『靈操』の原案ともいべきものをまとめている。これは彼のもとに靈的指導を求めてやってきた人に対して行った一連の黙想のテーマ集であった。『靈操』の影響はイエズス会にとどまらず、以後のカトリック教会全体にまで及んだ。

1523年に彼は聖地巡礼に出発する。しかし、この時の地中海の情勢は最悪で、キリスト教徒を迫害するトルコ軍や海賊がウロウロしている状況だった。それでも、ロヨラは嫌がる船員達を無理矢理説得して、エルサレムへと出かけた。

そして今度は地元のイスラム教徒たちをキリスト教に改宗させようという無茶を計画するが、仲間たちに説得されて、これを諦め、翌 1524 年に帰還した。

その後の彼は、バルセロナ、アルカラ、サラマンカを渡り歩き、学問三昧の毎日を送る。少年時代に勉強をサボったツケを払わされ、ラテン語などは子供たちに混じって勉強したらしい。

サラマンカにいる時には、そこで警戒され、地元のドミニコ会に拉致同然のやり方で、修道院に監禁される。この時、所持していた「靈操」の原稿が彼らに見つかり、神学者たちはこれを読んで、彼に理解を示し、解放された。

その後、一緒にいる若い同志たちに迷惑をかけるべきではないと判断した彼は、仲間たちと別れ、単身パリに向かう。1528 年のことである。

1528 年、イグナチオはパリ大学に入学し、一般教養と神学を学んだ。パリでは七年学んだが、多くの人々がイグナチオの靈的指導を求めてやってきた。

1534 年までに彼は六人の重要な同志を得ていた。フランス人のピエール・ファーヴル、スペイン人のフランシスコ・ザビエル、アルフォンソ・サルメロン、ヤコブ・ライネス、ニコラス・ボバディリャ、そしてポルトガル人のシモン・ロドリゲスであった。

## イエズス会の創設

1534 年 8 月 15 日、イグナチオと六人の仲間はパリ郊外のモンマルトルの丘の中腹の諸殉教者聖堂で誓いをたてた。彼らの立てた誓いは「今後、七人はおなじグループとして活動し、エルサレムでの宣教と病院での奉仕を目標とする。あるいは教皇の望むところならどこでも赴く」というものであった。これがイエズス会の始まりである。

1537年、七人は教皇から直接修道会としての許可を受けようとローマに向かった。時の教皇パウルス3世は一同の知的レベルと志の高さを認め、会を認可した上で司祭叙階の許可を与えた。6月24日、ヴェネツィアに赴いた一行はアルベの司教から司祭叙階を受けた。当時、イタリア半島では神聖ローマ皇帝や教皇、オスマン帝国を巻き込んだ戦いが行われていたため、聖地への渡航をあきらめ、当面はイタリア国内で説教と奉仕活動に専念する方針をたてた。

1538年10月、ファーヴルおよびライネスを従えて再びローマに赴いたロヨラは、教皇から修道会の会憲の認可を得ることで正式な許可を得ようとした。そして、パウロ3世は1540年9月27日にイエズス会を正式に許可した。このとき、修道会は60人の定員にすべし、という条件がつけられたが、この制限も1544年には解除された。そして1550年には、正式な会則も決まり、活動を開始する。



イグナチオは会の最初の総長に選ばれた。彼は会員たちを欧州全域に派遣して、一般学校と神学校を各地に創設させた。

1553年から1555年、イグナチオは自らの生涯を振り返って「自伝」を口述し、秘書のカマラ神父に書き取らせた。この自伝は霊操の精神を理解する上でも重要な資料となっている。

イグナチオは1556年7月31日にローマで死去。65歳であった。1609年7月27日に教皇パウルス5世によって列福され、1622年5月22日にグレゴリウス15世によって列聖された。

## ガウディの作品群（世界遺産）

ガウディ（1852年～1926年）は古今東西の折衷様式を唱えたモダニズムの代表的建築家として知られています。そして、アントニオ・ガウディの作品群はスペイン（特にバルセロナ）にあるガウディの作品群で特に、ユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されたものを言います。

ガウディの作品はよく「生き物のような建築」といわれますが、それは彼が「建築は有機体を創造する。それゆえ、この有機体は、大自然の法則に合致した法則を持たなければならない」と考え、有機的なデザインを積極的に導入したからなのです。

1984年に行なわれた世界遺産会議においてバルセロナの**パルケ・ゲル**、**パラシオ・ゲル**、**カサ・ミラ**の名称で登録を受けたが、2005年に追加登録をした際に現在の名前に改称した。

ガウディが建築家としてのキャリアをスタートさせたのは、カタルーニャの経済が黄金期を迎えた1870年代末から1880年代にかけてのことでした。1878年に建築大学を卒業したガウディは、その年早くも個人住宅カサ・ビセンスの設計を任せられ、パリ万博に出展する革手袋店からはショーケースのデザインを依頼されました。この作品が後に彼のパトロンとなるゲル氏の目に留まり、ガウディは成功への階段を駆け上ることになったのです。

1883年、ガウディが31歳のとき、彼の人生を決定づける事件が起こりました。サグラダ・ファミリア聖堂の2代目建築家に就任したのです。以降、彼はほかの仕事と併行しながらこの教会の建設にすべての情熱を傾け、1914年からはこの仕事だけに専念しました。かれの作品群として世界遺産に登録されている。

- カサ・ビセンス（1878-1888年）
- サグラダ・ファミリアの地下聖堂（1884-1891年）
- ゲル邸（1886-1889年）
- サグラダ・ファミリアのアプス外壁（1891-1893年）
- コロニア・ゲル教会堂（1898-1916年 未完）
- ゲル公園（1900-1914年）
- カサ・バトリヨ（1904-1906年）
- カサ・ミラ（1905-1907年）

## アントニ・ガウディ・イ・コルネット

Antoni Gaudi i Cornet (1852年～1926年)

日本ではアントニオ・ガウディと呼ばれることが多いが、これはスペイン語式の名前で、カタルーニャ語ではアントニとなる。

### 生き物のような建築物

19世紀後期、スペイン北東部のカタルーニャ地方では、繊維工業を中心にいち早く産業革命に成功し、それによって得られた経済力をバックに、自分たちの文化の独自性(カタルーニャ・アイデンティティ)を取り戻そうとするルネサンスにも似た文芸復興運動(ラ・レナッセンサ)が勃興しました。

カタルーニャは、バルセロナ伯国としてローマ帝国崩壊後から大航海時代まで地中海東部の覇権を握ったという歴史があり、本来ポルトガルのように独立国家となっても不思議ではありませんでした。そのため、マドリードを中心としたカスティーリャ地方への対抗心が強く、独自のアイデンティティを充足させるために独創的文化の復興が強く望まれたのでした。

そのムーブメントのなかから出現したのが、モデルニスモという新しい建築のスタイルでした。そして、その象徴的存在となったのが、奇オアントニオ・ガウディだったのでした。

ガウディは、1852年6月25日、カタルーニャ地方南部のレウスという街で、貧しい銅板器具職人の家に生まれました。ガウディは、「自分に空間把握能力があるのは職人の家系だからだ」と語るほどその出自に誇りを持ち、公の場でもカタルーニャ語しか話さないような、根っからのカタルーニャ人でした。



幼い頃、慢性の関節リウマチ に苦しんでいた彼は、普通に学校へ通うことができませんでした。そのせいもあり彼の学校の成績は幾何学以外みな人並み以下で、手先が器用なだけの大人しい少年だったようです。そして、激しい痛みのため、遠出する際は口バに乗っていたといいます。このため、自由時間になると家の近所で自然を観察して過していました。こうした幼年期の自然との触れ合いが、自然の造形の観察と分析からデザインを導き出す彼の設計手法に影響を与えたと考えられています。

1873年、21才でバルセロナの建築学校へ進学し、いよいよ建築家になるという夢を現実化し始めます。しかし、当時彼は年老いた父親や姉といっしょに暮らしていた。そしてその生活費を稼ぐためにバイトに励んでいたため、成績はそれ程良くなかった。彼の才能を理解できる人は教授陣の中のほんの一握りにすぎませんでした。

バルセロナ建築学校時代から「狂人か？天才か？」と教授陣を悩ませたほど、特殊な天賦を持ち合わせていたガウディでしたが、彼の一目奇妙と見える建築のバックボーンには、しっかりとカタルーニャ人としてのアイデンティティが生きているのです。それは、ガウディが確立したモデルニスモという新しいスタイルが、古くからイスラムの影響を受けた結果、カタルーニャの地に誕生していた、ムデハル様式の影響を強く受けていることから想像できるでしょう。

## 建築家としてのスタート

1878年3月15日、26歳になったガウディは、建築学校を卒業。まずは助手として働きながら、小さな仕事をこなしつつ生計を立てて行きます。そして、その小さな仕事の中から、彼は大きなチャンスをつかむことになりました。それはある革手袋の専門店からの依頼で作ったショーケースのデザインがきっかけでした。

彼が作り上げたその小さなショーケースは、1878年開催のパリ万博会場に置かれるものでした。ところが、そのショーケースの斬新なデザインは、あっという間に会場の注目を集めるようになります。そして、そんな観客たちの中に、後にガウディにとって最大のパトロン、最高の理解者となる人物エウセビオ・グエルがいました。

グエルはガウディより6歳年上の青年実業家で、父親が築き上げた巨大な繊維会社の後継者として、すでに会社のトップの座にありました。そのうえ、彼の

経営手腕は父親以上で、元々の繊維工業だけでなく、銀行、鉱山会社、セメント会社などの経営にまで手を広げ、スペインを代表する企業家のひとりになっていました。

1883年、31才の時、サグラダ・ファミリア贖罪聖堂の設計を引継ぐ依頼を受けました。彼は無神論者だったが、キリスト教について学ぶ中で、彼自身に降りかかっていた不幸や成功について、すべては神が導いたことだと気づき始めます。そして、10年間悩んだ末、聖堂建設が自分の天命だと確信し、全てを聖堂建設に捧げる決意をします。そして、現在も建設中の18本の塔を持つ、壮大な聖堂が設計されたのです。

### ガウディ建築時代の始まりと苦悩の日々

彼は、サグラダ・ファミリアの仕事を得たことで、いっきに業界での評価が上がりました。さらに奇想館（1883～1885年）、グエル別邸（1884～1887年）、グエル邸（1886～1889年）などの仕事を平行してこなし、建築家として一流の仲間入りを果たします。しかし、彼にとってすべてが上手くいっていたわけではありませんでした。



#### グエル邸（1886-1889年）

もともと彼同様、身体が弱かった4人の兄姉は、早くにこの世を去ってしまい、1880年代にはすでに父親と自分だけしか家族がいなくなっていました。そして、

人一倍内気だった彼は恋をしても、なかなかその思いをうち明けられず、結局生涯独身を通すことになってしまいます。

そんな孤独な彼にサグラダ・ファミリアの建築という大きな仕事のプレッシャーがのしかかることで、彼は少しずつ精神的に追いつめられ始めます。それに対し、彼は 1894 年突然断食を始めます。なんと 40 日間何も食わず、ついには死の危険に陥ります。それは自殺に近い行為でした。幸いこの時は、カタルーニャ地方の文芸復興運動の中心人物だったホセ・トラス・バジェスという神父の説得により、なんとか一命をとりとめました。そして、この時以来彼は、自分の命を救ってくれた神に対する感謝の気持ちが、彼の建築における重要なテーマとなって行きます。サグラダ・ファミリアはまさにその象徴でした。

その後ガウディはそれまでの迷いが吹っ切れたかのように、ぞくぞくと歴史的建造物を生み出し始めます。コロニア・グエル教会堂(1898~1916 未完成)、グエル公園(1900~1914)、カサ・バトリヨ(1904~1906)、カサ・ミラ(1905~1907)どれも 20 世紀を代表する建築物として未だにその価値を失わないものばかりです。

中でも、バルセロナの中心部から離れた場所に、庭園都市型の分譲住宅地の中心として作られたグエル公園は、まるでおとぎ話の世界を訪れた気分させてくれる不思議な空間です。

ガウディは後半生を熱心なカトリック教徒として過しました。1914 年以降、彼は宗教関連以外の依頼を断り、サグラダ・ファミリアの建設に全精力を注ぎました。しかし、親族や友人の相次ぐ死によるガウディの仕事の停滞とバルセロナ市が財政危機に見舞われたことによって、サグラダ・ファミリアの建設は進まず、同時に進めていたコロニア・グエル教会堂の建設工事は未完のまま中止されてしまいました。さらに 1918 年、パトロンのグエルが死去。

この頃の不幸の連続がガウディを変えたと言われています。彼は取材を受けたり、写真を撮られるのを嫌うようになり、サグラダ・ファミリアの作業に集中するようになりました。

1926 年 6 月 7 日、ガウディはミサに向かう途中、路面電車に轢かれました。晩年身なりに気をつかわなかったため、貧民の為の病院に運ばれたため、手当てが遅れ、三日後に息を引き取りました。享年 73 歳。彼の遺骸はサグラダ・ファミリアの地下礼拝堂に埋葬されました。

## サグラダ・ファミリア

サグラダ・ファミリア（カタルーニャ語: *El Temple Expiatori de la Sagrada Família*、聖家族贖罪教会、聖家族教会または神聖家族聖堂）は、バルセロナに建てられている教会。未だに建設中のガウディの代表作として有名。

### サグラダ・ファミリアの歴史

1865年、ヨーロッパ中がコレラの流行によって大きな被害を受けました。この時、宗教書の出版で財を成していたホセ・マリア・ボカベーリヤという人物が「サン・ホセ(聖ヨセフ)協会」という組織を設立します。その目的は、失われつつある宗教心を復活させることでした。あくまでも入りやすい民間団体だったこともあり、この団体はしだいに会員数を増やし1878年には60万人を越えました。サグラダ・ファミリア教会は、このサン・ホセ協会が資金を集めて建設を計画、1882年に着工した礼拝堂なのです。



人々の現世の罪を贖うために聖家族に捧げる教会として建設を計画したものです。ただし、この教会は一般大衆を中心につくられた組織だったため資金面に問題があり、このことが後に大きな問題となります。

初代建築家フランシスコ・ビリャールが無償で設計を引き受け、1882年に着工したが意見の対立から翌年に辞任。困ったボカベーリヤは、その仕事を有名な建築家のホアン・マルトレールに依頼しますが、彼もまた多忙のため、その仕事を受けられず、自分の弟子の中でも特に優秀な設計技師ガウディを推薦します。

そのわけで、その後を引き継いで2代目建築家に任命されたのが、当時は未だ無名だったアントニオ・ガウディである。以降、ガウディは設計を一から練り直し、1926年に亡くなるまでライフワークとしてサグラダ・ファミリアの設計・建築に取り組みました。建設のための資金計画が不十分であったため、途中で何度も建設がストップしています。そのおかげで、ガウディは建築が再会されるまでの間、ゆっくりと設計の見直しや新しいアイデアの導入に取り組むことができたのです。

ガウディは詳細な設計図を残しておらず、大型模型や、紐と錘を用いた実験道具を使って、構造を検討したとされます。それらを含め、弟子たちがガウディの構想に基づき作成した資料などは大部分がスペイン内乱などで消失してしまっています（模型も破片になってしまった）。この為、ガウディの死後、もはや忠実にガウディの構想通りとはならないこの建築物の建造を続けるべきかという議論があったが、職人による伝承や大まかな外観のデッサンなど残されたわずかな資料を元に、時代毎の建築家がガウディの設計構想を推測するという形で現在も建設が行なわれています。北ファサード、イエスの誕生を表す東ファサード、イエスの受難を表す西ファサードは、ほぼ完成していますが、本来は屋根がかかる予定であり、またイエスの栄光を表すメインファサードのある南側は未完成です。

東側の生誕のファサードでは、キリストの誕生から初めての説教を行うまでの逸話が彫刻によって表現されている。3つの門によって構成され、左門が父ヨセフ、中央門がイエス、右門が母マリアを象徴する。中央の門を構成する柱の土台には変わらないものの象徴として亀が彫刻され、中央の柱の土台にはりんごを喰えた蛇が彫刻されている。また、門の両脇には変化するものの象徴としてカメレオンが配置されている。中央門では、受胎告知、キリストの降誕、祝福をする天使、東方の三博士や羊飼いだなどが彫られている。左門ではローマ兵による嬰兒虐殺、家族のエジプトへの逃避、父ヨセフの大工道具などが彫られ、右門には母マリア、イエスの洗礼、父ヨセフの大工仕事を手伝うイエスなどが彫られている。

西側の受難のファサードには、イエスの最後の晩餐から磔刑、昇天までの有名な場面が彫刻されている。東側とは全く異なり、現代彫刻でイエスの受難が表現されており、左下の最後の晩餐から右上のイエスの埋葬まで「S」の字を逆になぞるように彫刻が配置されている。最後の晩餐　ペテロとローマ兵たち  
ユダの接吻と裏切り　鞭打ちの刑　ペテロの否認　イエスの捕縛　ポ  
ンティウス・ピラトゥスと裁判　十字架を担ぐシモン　ゴルゴタの丘への

道を行くイエスとイエスの顔を拭いた聖布を持つヴェロニカ　イエスの脇腹を突くことになる槍を持つ騎兵ロンギヌス　賭博をするローマ兵　イエスの磔刑　イエスの埋葬と復活の象徴、そして鐘楼を渡す橋の中央に昇天するイエスが配置されている。

最近の状況では観光客の落とすお金によって建築資金の不足は解消され、永遠に完成しないとされていたサグラダ・ファミリアは2030年頃には完成すると言われています。ガウディは、その完成形を見ることなくこの世を去ってしまったわけですが、彼はそのことをそれほど残念には思っていなかったようです。「サグラダ・ファミリア聖堂の建設は、ゆっくりしている。なぜなら、この作品のご主人（神）が急がないからだ」というアントニオ・ガウディのコメントです。

- 1978年、彫刻家・外尾悦郎さんが、日本人として初めて建築作業に参加。
- 2005年、世界遺産に登録。
- 2006年、直下に高速鉄道AVEのトンネルを建設する計画が持ち上がり、教会側は、「地質の複雑さなどから教会建物の『永続性』に重大な危険をもたらす可能性がある」として、地元自治体などにトンネル建設中止の働き掛けを要請している。



## グエル公園

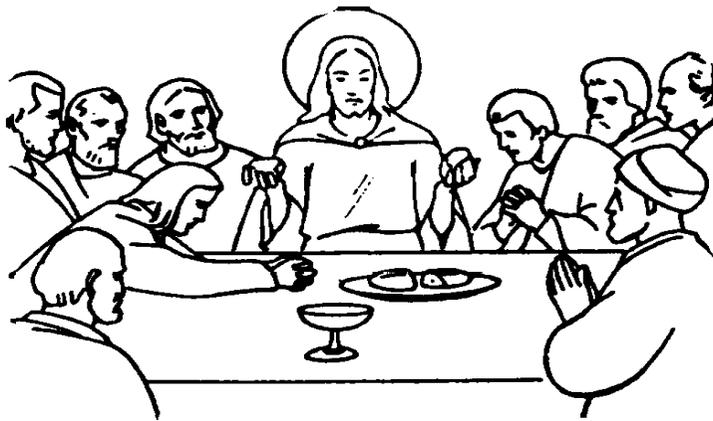
グエル公園（カタルーニャ語：Parc Guell）は、バルセロナにある公園で、バルセロナの街が一望できます。1984年にユネスコの世界遺産に登録されました。アントニオ・ガウディの作品群の1つです。



もともとはガウディの設計した分譲住宅で、1900年から1914年の間に建造されました。広場、道路などのインフラが作られ60軒が計画されていましたが、買い手がつかず、結局売れたのは2軒で、買い手はガウディ本人と発注者のエウセビオ・グエル伯爵だけであったといえます。

グエル伯爵の没後に工事は中断し、市の公園として寄付されました。現在はガウディが一時住んだこともある家がガウディ記念館として公開されています。中にはガウディがデザインした家具なども集められて展示されています。

公園に広がるガウディのデザインはもとより、その当時から車社会になることを予見して作られた陸橋、傾斜の地形を利用した人工地盤など、当時の様々なアイデアが残っています。



## 典礼と聖歌

2010年5月15日



### 集会祈願

いのちの源である神よ、わたしたちがよいわざに励み、み旨を行なうよう導いてください。いつも、よりよいものを目指して進み、主の死と復活の神秘を生きることができますように。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

### 第一朗読

#### 使徒たちの宣教

パウロはしばらく[アンティオキア]で過ごした後、また旅に出て、ガラテヤやフリギアの地方を次々に巡回し、すべての弟子たちを力づけた。

さて、アレクサンドリア生まれのユダヤ人で、聖書に詳しいアポロという雄弁家が、エフェソに来た。彼は主の道を受け入れており、イエスのことについて熱心に語り、正確に教えていたが、ヨハネの洗礼しか知らなかった。このアポロが会堂で大胆に教え始めた。これを聞いたプリスキラとアキラは、彼を招いて、もっと正確に神の道を説明した。それから、アポロがアカイア州に渡ることを望んでいたのも、兄弟たちはアポロを励まし、かの地の弟子たちに彼を歓迎してくれるようにと手紙を書いた。アポロはそこへ着くと、既に恵みによって信じていた人々を大いに助けた。彼が聖書に基づいて、メシアはイエスであると公然と立証し、激しい語調でユダヤ人たちを説き伏せたからである。

### 答唱詩編

神に向かって、。。。。（聖歌1）

## アレルヤ唱

アレルヤ、アレルヤ。わたしは父から出て、世に来たが、世を去って父のもとに行く。アレルヤ、アレルヤ。

## 福音朗読

### ヨハネによる福音

[そのとき、イエスは弟子たちに言われた。]「はっきり言っておく。あなたがたがわたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。今までは、あなたがたはわたしの名によっては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。わたしはこれらのことを、たとえを用いて話してきた。もはやたとえによらず、はっきり父について知らせる時が来る。その日には、あなたがたはわたしの名によって願うことになる。わたしがあなたがたのために父に願ってあげる、とは言わない。父御自身が、あなたがたを愛しておられるのである。あなたがたが、わたしを愛し、わたしが神のもとから出て来たことを信じたからである。わたしは父のもとから出て、世に来たが、今、世を去って、父のもとに行く。」

## 奉納祈願

恵み豊かな神よ、あなたの民の備えものを聖霊によってとうといものにしてください。わたしたち自身も、あなたへの永遠のささげものとなりますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

## 拝領祈願

いのちの源である神よ、キリストのからだを受けた人々を、いつくしみをもって顧みてください。主のことばに従ってこの記念を行なったわたしたちが、まことの愛を深めることができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

## 2010年5月16日 主の昇天



### 集会祈願

全能の神よ、あなたは御ひとり子イエスを、苦しみと死を通して栄光に高め、新しい天と地を開いてくださいました。主の昇天に、わたしたちの未来の姿が示されています。キリストに結ばれるわたしたちをあなたのもとに導き、ともに永遠のいのちに入らせてください。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

### 第一朗読

#### 使徒たちの宣教

テオフィロさま、わたしは先に第一巻を著して、イエスが行い、また教え始めてから、お選びになった使徒たちに聖霊を通して指図を与え、天に上げられた日までのすべてのことについて書き記しました。

イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられるからである。」

さて、使徒たちは集まって、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた。イエスは言われた。「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。あなたが

たの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。イエスが離れ去って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。すると、白い服を着た二人の人がそばに立って、言った。「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」

### 答唱詩編

遠く地の果てまで、。。。。（聖歌 9）

### 第二朗読

#### ヘブライ人への手紙

キリストは、まことのものの写しにすぎない、人間の手で造られた聖所ではなく、天そのものに入り、今やわたしたちのために神の御前に現れてくださったからです。また、キリストがそうなさったのは、大祭司が年ごとに自分のものでない血を携えて聖所に入るように、度々御自身をお献げになるためではありません。もしそうだとすれば、天地創造の時から度々苦しまねばならなかったはずですが。ところが実際は、世の終わりにただ一度、御自身をいけにえとして献げて罪を取り去るために、現れてくださいました。また、人間にはただ一度死ぬことと、その後に裁きを受けることが定まっているように、キリストも、多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた後、二度目には、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださるのです。

それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入ると確信しています。イエスは、垂れ幕、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです。更に、わたしたちには神の家を支配する偉大な祭司がおられるのですから、心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で洗われています。信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか。約束してくださったのは真実な方なのですから、公に言い表した希望を揺るがぬようしっかり保ちましょう。

## アレルヤ唱

アレルヤ、アレルヤ。全世界に行き、すべての人をわたしの弟子にしてください。わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる。アレルヤ、アレルヤ。

## 福音朗読

### ルカによる福音

[そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「聖書には」次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。』

イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。

## 奉納祈願

聖なる父よ、主の昇天を祝い、喜びのうちにこの供えものをささげるわたしたちを受け入れてください。御子とともにあなたの栄光をたたえることができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

## 拝領祈願

全能永遠の神よ、地上を旅するわたしたちは、今、いのちの糧に強められて祈ります。天に上げられたキリストに結ばれて、いつも永遠の国を目指すことができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

## 2010年5月17日 モンセラート



### 集会祈願

聖なる父よ、聖霊をわたしたちの上に注いでください。日々の生活の中で、いつもみ旨を行なうことができますように。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

### 第一朗読

#### 使徒たちの宣教

アポロがコリントにいたときのことである。パウロは、内陸の地方を通過してエフェソに下って来て、何人かの弟子に出会い、彼らに、「信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか」と言うと、彼らは、「いいえ、聖霊があるかどうか、聞いたこともありません」と言った。パウロが、「それなら、どんな洗礼を受けたのですか」と言うと、「ヨハネの洗礼です」と言った。

そこで、パウロは言った。「ヨハネは、自分の後から来る方、つまりイエスを信じるようにと、民に告げて、悔い改めの洗礼を授けたのです。」人々はこれを聞いて主イエスの名によって洗礼を受けた。パウロが彼らの上に手を置くと、聖霊が降り、その人たちは異言を話したり、預言をしたりした。この人たちは、皆で十二人ほどであった。

パウロは会堂に入って、三か月間、神の国のことについて大胆に論じ、人々を説得しようとした。

### 答唱詩編

神に向かって、。。。。（聖歌 1）

## アレルヤ唱

アレルヤ、アレルヤ。キリストとともに復活したなら、上のことをもとめよう。キリストは神の右に座しておられる。アレルヤ、アレルヤ。

## ヨハネによる福音

[そのとき、弟子たちはイエスに言った。]「今は、はっきりとお話しになり、少しもたとえを用いられません。あなたが何でもご存じで、だれもお尋ねする必要のないことが、今、分かりました。これによって、あなたが神のもとから来られたと、わたしたちは信じます。」

イエスはお答えになった。「今ようやく、信じるようになったのか。だが、あなたがたが散らされて自分の家に帰ってしまい、わたしをひとりきりにする時が来る。いや、既に来ている。しかし、わたしはひとりではない。父が、共にいてくださるからだ。これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」

## 奉納祈願

いつくしみ深い父よ、とうとい供えものをささげるわたしたちを清め、恵の力で強めてください。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

## 拝領祈願

いつくしみ深い父よ、あなたの民の力となってください。主の食卓で養われたわたしたちが、古い人を脱ぎ捨て、新しいいのちに生きることができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

## 1 神に向かって

答唱 かみ-にむかってよろこびうたい かんじのうたをささげよう

1. 神の恵みによって 民のつどいで賛美を ささげろ 神をおそれる人々の前で わたしは誓いを 果たすノ  
 2. 遠く地の果てまで すべての者が神に たちかえりノ 生きる喜びで かれらの心は いつも 満たされるノ

- ・ 貴しい人は かくてに 恵まれ 神を求めるとは 賛美を ささげ る  
 ・ 諸國の民は 神の前にひざを かがめ る わたしたちの國は 神のもの 神は諸國を 治められ る

## 2 主を仰ぎ見て

答唱 主を あおぎみて ひかりをうけよう 主  
 答唱 主を あお - ぎみて ひかりを - うけよう

が おとずれ るひとの か おはかが やく -  
 - - - - - か おはかが やく -

1. 主を たたえよう あげられ賛美を くちにして  
 2. 心をあわせて 主をあがめ とともにその名を たたえよう

1. 主は わたしたちの目の ほこり 苦しむ時の心の よるこび  
 2. 主は わたしたちの祈りに心を 留め すべての恐れを遠ざけて くださる

### 3 このパンを食べ

答唱 このパンをたべこのさかずきをのみわたしは主の死をつげしらせる

1 神が 与えてくださった すべての恵みに      どのように      ごたえようか  
 2 神を敬う人の死は      神の前に      とうとうい  
 3 わたしは 感謝の いけにえを ささげ      神の名を      呼び求めよう

1 わたしは 救いの杯を ささげ、      神の名を      呼び求めよ  
 2 神よ わたしは あなたに 仕え、      あなたは わたしを      救われ  
 3 すべての民の前に 進み出て、      神に立てた 誓いを      果たさ

### 4 主はわれらの牧者

答唱 主はわれらのぼくしわたしはとぼしいことがない

1 神は わたしを 緑のまきばに      伏さ せ      いこいの水辺に      仰われる  
 2 たとえ 死の 陰の 谷を      歩ん で      わたしは わざわいを      恐れない  
 3 あなたは はむかう者の      前 で      わたしのために 会食を      ととのえ  
 4 神の 恵みと      いつくしみに      生涯      仰われ

神は わたしを      生き返らせ      いつくしみによって正しい道に      み      ち      び      か      れ      る  
 あなたが わたしとともに おら      れ      そのむちと つえは わたしを      ま      も      れ      る  
 わたしの 罪に 赦を      注      ぎ      わたしの杯を      満      た      さ      れ      る  
 わたしは      とこしえに      神の家に      生      き      ぬ      る

## 5 しあわせなかたマリア

しあわせなかたマリアめぐみあふれるマリア

あなたとともにかみはおられしよくふくはおんなのあなたとあ

あなたの子にイエスにけだかいマリアかみのははつ

みふかいわたしたちのためにいまも死をむかえるときにもか

みにいのってくださいいア

## 6 神のみ旨を行なうことは

答唱 か み のみむねをお こなうことはわたしのこころのよろこび

- |                |        |                          |
|----------------|--------|--------------------------|
| 1. 神よ あわれみと祝福を | わたしたちに | あなたの顔の光をわたしたちの上に照らしてください |
| 2. 諸国の民は あなたを  | たたえ    | すべての民は あなたを 賛美せよ         |
| 3. 地は豊かに       | 実り     | 神は わたしたちを 祝福された          |

- |                    |     |                        |       |
|--------------------|-----|------------------------|-------|
| 1. あなたのわざが世界に      | 知られ | 救いが すべての国に知られる         | ように   |
| 2. すべての国は喜び        | 歌え  | あなたは民を正しくさばき諸国の民を 導かれる |       |
| 3. 地の果てに至るまで 神をおそれ | 教え  | 神は わたしたちを              | 祝福された |

## 7 ひとつになろう

*J = 60くらい*

ひ と つ に な ろ う キ リ ス ト の う ち に み な ひ

と つ に な ろ う と つ に な ろ う

ひ と つ に な ろ う キ リ ス ト の う ち に み な ひ と つ に な ろ う と つ に な ろ う

## 8 行け 地のはてまで

Alla Marcia ♩ = 100 (くらい)

ゆけ ゆけ 地のはてまで すくいのおとす  
れ を つげ るた め に げ るた め に

Alla Marcia

ゆけ ゆけ 地のはてまで すくいのおとす  
れ を つげ るた め に げ るた め に

## 9 遠く地の果てまで

29番 96

答唱 と おく地のはてまで すべてのものがかみのすくいをみた

1 新しい歌を 神に うたえ 世界よ 神に向かって 喜び うたえ  
2 天地は喜びに あふれ 海とそこに満ちるものは叫びを あげる  
3 聖なるものが現れる時 神を おがめ 世界よ 神を おそれ よ

1 神の名を たたえて 歌 い 日ごとに牧いを 告げ知らせよ  
2 野とそこにあるものは どよめき 森の木々は声をあげて 神の前で うた う  
3 神は来られる 世界をさばきに 来られる 正義とまことをもって すべての民を さばかれ る



## メモ帳

Lined area for notes, consisting of 20 horizontal lines.



